

## 菱沼 宏之

Hiroyuki Hishinuma

総務省  
情報通信国際戦略局  
国際経済課長

## 激動さなかの世界を駆け抜ける

## これまでのキャリアをふりかえって

これまで26年、情報通信や郵便に関する制度設計や国際交渉に携わってきました。

元々切手収集に興味があり、郵便局でなじんでいたこともあって当時の郵政省を志望しましたが、入省後はデジタル社会の進展に関わる様々な仕事に携わってきました。

インターネットや電話などの通信は国境を越える性質を持つことから、他国や国際機関との関係を抜きにして政策を語ることはできません。

英国の欧州連合（EU）離脱、プーチン・ロシア大統領の訪日、米国共和党トランプ政権への移行など、情報通信分野でこれが全て自分の業務に関わってくるのです。

例えば、2017年2月には、日米首脳会談に合わせて太田総務大臣補佐官と訪米し、米国連邦通信委員会（FCC）アジット・パイ委員長から就任後初めて訪問した外国政府関係者として歓迎されるとともに、情報通信分野における協力関係の進展に貢献することができました。

また、全体の半分近い12年、総務省を出て、在外勤務をはじめ、多くの経験をできたことは、血となり肉となつて今に活かされています。

## ■1999～2002 総合通信基盤局 電気通信事業部 料金サービス課 課長補佐

初の電気通信行政はまず、NTT東・西の基本的な電話料金の上限価格を設定することから始まりました。これにより市内電話の3分10円が崩れたのではないかと密かに思っています。2001年の省庁再編後は、電気通信事業法の改正に携わり、ユニバーサルサービス基金制度を創設しました。

## ■1997～1999 内閣官房 内閣安全保障・危機管理室

内閣官房に出向。パルー大 使公邸人質事件等を受け 内閣官房に内閣官房副長官に準ずる職として内閣危機管理監の職を設 置するための内閣法の改正に携わり、国会審議対応まで行いました。

## ■1996～1997 本荘郵便局長

雪国の秋田県に赴任しました。雪の中バイクで配達員に付いていて配達状況を把握し、郵便物を配達しきれない日には原因を分析しました。郵便貯金と簡易生命保険の営業だけでなく、郵便局の顔として「タナ クラブ」をはじめとした地域の活動に取り組み充実した1年間を過ごすことができました。

## ■1994～1995 米国留学

## ■1995～1996 郵政省 大臣官房国際部 国際政策課 国際広報係長

米国で国際関係論を学んだ1年間には、レポート36本、試験13回、卒業論文1回の計50回の試験を経て、修士を取得できました。1つのクラスで次の授業までの課題が本1冊とレポートなど大変でしたが、Netscapeなどインターネットが隆盛を極めていく過程を実感できた1年間でした。帰国後は外国人記者対応やG7サミットのフォローアップなどを行いました。

## ■1991～1994 郵政省 郵務局（総務課 総括係—国際課 企画調査係）

入省後1年間の法令協議等の担当の後、国際郵便料金改定の担当となり、上司の助けを借りつつも、計算や料金地帯決めは1人で行って料金改定案を策定しました。国際郵便料金表に自分が算定した料金が掲載された時の嬉しさは、忘れられません。



サイバー空間に関するブダペスト会議にて講演

## ■2014～2016 情報流通行政局 郵政行政部 貯金保険課長

民営化後、株式上場を迎えた日本郵政グループの金融部門を監督し、在籍2年間のうちに、与党での議論と郵政民営化委員会での議論を経て、25年ぶりにゆうちょ銀行の貯金限度額を引き上げるとともに、30年ぶりにかんぽ生命保険の加入限度額を引き上げる政令改正を行うことができたのが大きな成果です。

## ■2009～2014 情報通信研究機構（経営企画部 統括—欧州連携センター長）

2年間の小井本部勤務を経て、3年間のパリ赴任。まさに欧州各国を飛び回り、共同研究開発の相手を探しました。フランス国内はもとより、国際共同研究を実施した欧州委員会（EU）のあるブリュッセル、国際電気通信連合（ITU）のあるジュネーブ、ロンドン、ベルリンと出張は数えきれません。マラソンにも力を入れました。

## ■2005～2009 総合通信基盤局（国際部 国際政策課 統括補佐—総務課 統括補佐等）

国際政策課で麻生太郎大臣のインド出張や竹中平蔵大臣のダボス会議等に同行、総務課で総合通信基盤局長に付いて国会対応、初代の安全信頼性対策室長として重要通信や通信の災害対策を立案、事業政策課ではNTTの在り方を検討しました。1年毎に4つのポストを歴任し、なかなかキャッチアップが大変な日々でした。

## ■2002～2005 在香港日本国総領事館 領事

結婚して初めての海外赴任。学生時代に学んだ中国語と発音が結構違う広東語に苦心しました。中国の経済変化のダイナミズムをそばで観るとともに、西側世界との窓口として機能する香港の柔軟さに感嘆しました。情報通信だけでなく、厚生労働担当としてSARS（重症急性呼吸器症候群）対策に奔走したのも懐かしい思い出です。



仏メドックマラソンを走り終えて高橋尚子さんとともに